
九州運輸局メールマガジン 平成 28 年 12 月 1 日 第 346 号

～運輸と観光で九州の元気を創ります～

<http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/>

九州運輸局メールマガジンをご愛読くださりありがとうございます。

九州運輸局メールマガジンは隔週の木曜日（祝・祭日の場合は翌日）にお届けしています。

今回の発行日は平成 28 年 12 月 15 日（木）となります。

◆ 目次

1 現場レポート

・石井国土交通大臣が JR 博多駅前道路等を視察～11 月 19 日と 20 日に宮崎県と福岡県の各地を視察～

・平成 28 年熊本地震功労者の方々に九州運輸局長から感謝状を贈呈しました～13 の関係団体へ贈呈、関係事業者への贈呈は来年 2 月に～

・「省エネ促進フォーラム 2016 in 福岡」を開催しました～人と地球に優しい運輸を目指して～

・「地域公共交通のあり方を考えるシンポジウム 2016 in 九州」及び「地域公共交通活性化セミナー2016 in 福岡」を開催しました

・鹿児島において「物流に関する意見交換会」を開催しました～荷主、物流事業者、行政により、物流の課題や改善方策等を意見交換～

・福岡貨物ターミナル駅で、「鉄道コンテナ施設等見学会」を開催しました～モーダルシフトの推進に向けて～

・フェリー火災に備えて～管内で初めて、フェリー事業者などを対象に合同消防訓練を開催～

・鹿児島港で練習船「日本丸」の見学会を開催

・奄美群島初の「両頭船」が就航～旅客船への乗降が安全でスムーズに～

・練習船「青雲丸」で高校生の船舶料理士体験学習会を実施～福岡県立水産高校の生徒が船舶の調理現場を体験～

2 お知らせ

・輸送機関の安全対策実施状況をチェック！～年末年始の輸送等に関する安全総点検を実施します～

・「公共交通事故被害者等支援フォーラム」を開催します

・「地方創生 DMO 実践編シンポジウム in 九州」開催について

・日本政府観光局（JNTO）主催の インバウンドビジネスセミナー「インバウンドビジネス最前線～外国人旅行者がもたらすビジネスチャンス～」が開催されます

3 九州運輸局ホームページアップ情報

・報道発表

・お知らせ

・更新情報

1 現場レポート

◆石井国土交通大臣が JR 博多駅前道路等を視察

～11 月 19 日と 20 日に宮崎県と福岡県の各地を視察～

◎石井国土交通大臣が、11 月 19 日（土）と 20 日（日）に宮崎県と福岡県の各地を視察しました。20 日には福岡市で JR 博多駅前道路陥没現場や北九州市の国道 3 号線

黒崎バイパス等を、前日の19日には宮崎県でJR日南線「海幸山幸」での乗車視察や油津港や飫肥城下町の視察、宮崎県立日南振徳高校での地元高校生を交えた日南市長と意見交換等を行い、地域活性化や観光振興の成功例等も確認しました。

◇内容

[11月19日(土)]

①視察等

・東九州自動車道「芳ノ元トンネル」、道の駅「酒谷」、JR日南線「海幸山幸」(乗車)、日南市油津商店街、油津港、飫肥城下町、宮崎県立日南振徳高校(地元高校生を交えた日南市長と意見交換)、航空大学校、宮崎県知事(意見交換)

②石井大臣の会見

・(大臣)「地域の活性化など多くの成功事例が見ることができた。」

[11月20日(日)]

①視察等

・福岡市営地下鉄七隈線延伸工事箇所(埋戻箇所と立坑箇所)、国道3号線黒崎バイパス(JR八幡駅付近)、北九州港響灘風力発電施設、下関北九州道路(北九州側)、北九州家守事業、第七管区海上保安本部巡視船「くにさき」(職員激励)等

②石井大臣の会見

・(大臣)「(道路陥没事故に関し、第三者委員会は)今月中にも開きたい。あらゆる可能性を排除せず事故原因を調査したい。」

◇九州運輸局からのメッセージ

・福岡市営地下鉄七隈線延伸工事現場での視察では、高島福岡市長からの説明と調査への協力要請があり、大臣からは原因究明と再発防止策の検討を支援するとの力強いコメントがありました。

・また、宮崎県での視察では飫肥駅で乗客の方々と気軽に記念撮影に応じられる場面もありました。

◇石井国土交通大臣の視察の様子は、九州運輸局メールマガジンフォトライブラリーからご覧ください。

http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/mail_magazine/pdf/photo/photo_346_1.pdf

◆平成28年熊本地震功労者の方々に九州運輸局長から感謝状を贈呈しました
～13の関係団体へ贈呈、関係事業者への贈呈は来年2月に～

◎九州運輸局では、11月24日(木)、福岡合同庁舎新館(福岡市博多区)にて、平成28年熊本地震の発生に際し、被災された方々の宿泊施設への受け入れ、被災地域への緊急支援物資等の保管・輸送等により尽力いただいた団体に対し、感謝状を贈呈しました。

◇内容

・九州運輸局長から管内の運輸・観光関係13団体に対し感謝状を贈呈。

・感謝状贈呈団体：熊本県倉庫協会、福岡県旅館ホテル生活衛生同業組合、佐賀県旅館ホテル生活衛生同業組合、おんせん県観光誘致協議会、(一社)熊本県タクシー協会、(公社)福岡県トラック協会、(公社)佐賀県トラック協会、(公社)長崎県トラック協会、(公社)熊本県トラック協会、(公社)大分県トラック協会、(一社)宮崎県トラック協会、(公社)鹿児島県トラック協会、(一社)日本自動車連盟

熊本支部

※(一社)宮崎県トラック協会へは、同日に同協会が宮崎市で開催した「交通事故・労働災害防止総決起大会」の場にて、宮崎運輸支局長から感謝状を伝達。

◇九州運輸局からのメッセージ

感謝状を贈呈しました運輸・観光関係 13 団体の緊急支援物資の輸送や保管、被災された方々の生命・身体又は財産の保護に資する活動など、それぞれの分野において支援活動にご尽力いただいたことに、改めて感謝いたします。九州運輸局としても、今後も被災地域の復興に努めていきますので引き続きご協力をお願いいたします。

◇贈呈式の写真は九州運輸局メールマガジンフォトライブラリーからご覧ください。

http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/mail_magazine/pdf/photo/photo_346_2.pdf

◆「省エネ促進フォーラム 2016 in 福岡」を開催しました

～人と地球に優しい運輸を目指して～

◎九州運輸局では、11月11日(金)、ハイアット・リージェンシー・福岡(福岡市博多区)にて、今年で10回目となる「省エネ促進フォーラム 2016 in 福岡」を開催しました。

◇内容

・フォーラムは、地球温暖化問題への理解を深め、人と地球にやさしい運輸を目指すために情報を共有し、今後の省エネ対策の参考としていただくことを目的として平成19年から開催しており、今年で10回目。運輸・交通事業者、関係団体、地方自治体関係者など80人が参加。

・陸上・海上交通、観光、倉庫、港湾運送、造船等の分野における環境負荷軽減やエコ通勤への転換など環境保全の活動に顕著な功績があり、他の模範となるに相応しい事業者等に対する「九州運輸局環境保全関係表彰式」も併せて開催し、4事業者を表彰。

①基調講演

・「温暖化」時代に心したいこと～運輸部門の省エネを意識しながら～

(講演者：九州工業大学名誉教授 西 道弘氏)

②九州運輸局環境保全関係表彰

・オーシャントランス株式会社

保有する4隻のフェリーを新造船に代替するにあたり、主機関に低速2サイクル電子制御主機関を採用し、大型フェリーでは画期的な1機1軸型、高効率CPP及び風圧抵抗が削減された船型等との組み合わせによる低燃費運航を実現した先進二酸化炭素低減化船の導入により、二酸化炭素等の排出削減に努め、環境保全に貢献。

・佐賀市交通局

軽油に比べて排気ガスに二酸化炭素や黒煙、硫黄酸化物が少ない環境に優しいバイオディーゼル燃料を市営バスに使用し、二酸化炭素等の排出削減に努めるとともに車体広告により、市民に対して地球温暖化防止や環境に対する意識啓発を行い、環境保全に貢献。

・有限会社共栄資源管理センター小郡

エコ通勤を継続的に実施するため、会社近くへの居住を推進し、通勤距離を短くす

るための住居手当制度の導入や徒歩通勤・自転車通勤者への補助制度の導入などエコ通勤の環境整備を積極的に行い、環境保全に貢献。

・佐伯タクシー株式会社

環境負荷の少ない電気タクシーを積極的に導入することにより、二酸化炭素排出を削減するとともに、深夜輸送に対しても静かな車として近隣住民への配慮を行うなど、環境保全に貢献。

③省エネ対策の取り組み事例紹介

・「省エネと省力（省メンテナンス）」

オーシャントランス株式会社 代表取締役社長 高松 勝三郎氏

・「循環型社会における廃食用油リサイクル事業について」

佐賀市 環境部 循環型社会推進課 3R推進係 主査 田中 和之氏

◇九州運輸局からのメッセージ

参加者に実施したアンケートでは、「今後の仕事に大いに生かせる内容でした」との主催者にはうれしい声も寄せられ、今後もフォーラムの開催等を通じて、地球環境保全に資する運輸部門における省エネ対策を推進していきたいと考えています。

◇「省エネ促進フォーラム 2016 in 福岡」の様子は九州運輸局メールマガジンフォトライブラリーからご覧ください。

http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/mail_magazine/pdf/photo/photo_346_3.pdf

◆「地域公共交通のあり方を考えるシンポジウム 2016 in 九州」及び「地域公共交通活性化セミナー2016 in 福岡」を開催しました

◎九州運輸局では九州地方整備局と共催で、10月26日～27日、TKP ガーデンシティ博多新幹線口5階プレミアムホール（福岡市博多区）にて、今回で8回目となる行政・交通関係事業者・一般市民を対象としたシンポジウム及びセミナーを開催しました。

「地域公共交通を考えるシンポジウム 2016 in 九州」（10月26日（水））

◇内容

・「熊本地震の復興に向け、地域公共交通が果たす役割」をテーマに、熊本地震が公共交通に与えた影響や現状、平成23年に発生した東日本大震災後に公共交通が果たした役割について、講演やパネルディスカッションを実施。

・行政・交通関係事業者を中心に190人が参加

①開会挨拶：濱田 九州運輸局次長

②熊本地震から見た地域公共交通の役割と今後：藤井 熊本県交通政策課長

③震災後196日間のバス事業：河合 九州産交バス（株）取締役

④地域鉄道の復旧と今後：津留 南阿蘇鉄道（株）専務取締役

⑤東日本大震災が被災地のモビリティに与えた影響：元田 岩手県立大学名誉教授

⑥東日本大震災後の公共交通の復旧と現在の状況：武藤 福島交通（株）代表取締役

⑦パネルディスカッション

・コーディネーター：大井 大分大学准教授

・パネリスト：各講演者

・アドバイザー：福山 九州運輸局交通政策部長、島峯 九州地方整備局都市調整官

⑦閉会挨拶：島峯 九州地方整備局都市計画調整官

「地域公共交通活性化セミナー2016 in 福岡」(10月27日(木))

◇内容

・タクシーも地域公共交通の一部であると位置づけ、タクシーを中心とした先進的な取り組みを紹介。

・行政・交通関係事業者を中心に168人が参加。

①開会挨拶：福山 九州運輸局交通政策部長

②地域に密着したタクシーのあり方について：野々口 肥後交通グループ代表

③タクシーサービスの多様化について：南 大稲自動車(株)業務部長

④富士見が丘団地 おでかけ交通：古賀 富士見が丘団地「おでかけ交通」利用認定審査会委員、雨川 大分市都市交通対策課参事補

⑤地域公共交通の活性化・再生に向けて～タクシーへの期待～：小宮 国土交通省交通計画課長補佐

⑥閉会挨拶：前川 九州運輸局交通企画課長

◇九州運輸局からのメッセージ

・今年4月に発生した熊本地震は、熊本地域を中心に各地に甚大な被害をもたらし、現在もその爪痕は至る所に残っています。地域公共交通機関においても同様であり、特に、JR豊肥本線、南阿蘇鉄道については全線復旧まで相当の期間を要する状況にあり、バスについても被災の影響を受けており、経路の変更や迂回運行を余儀なくされている地域もある状況です。

・九州においては、今後、南海トラフ地震による大きな被害が予想されており、今回のシンポジウムは地域公共交通の観点から熊本地震の復興を考えると共に、災害を受けた状況下での公共交通のあり方を考える機会になったものと思います。各自治体においては、交通事業者と連携した事前の災害対応策の検討を進めていただければと思います。

・九州管内の市町村においても急速な人口減少、高齢化が進行しており、これまでより小規模な輸送需要が多くなることが想定されます。その中で、持続可能な公共交通体系の構築に向けて、タクシーを地域公共交通の一部として位置づけ、幅広い取り組みを進めていく必要があります。今回のセミナーにおいてご紹介した事業者や自治体の先進的な取り組みが、タクシーを公共交通の一部として考える契機となることを期待しています。

◇シンポジウムとセミナーの様子は、九州運輸局メールマガジンフォトライブラリーからご覧ください。

http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/mail_magazine/pdf/photo/photo_346_4.pdf

◆鹿児島において「物流に関する意見交換会」を開催しました

～荷主、物流事業者、行政により、物流の課題や改善方策等を意見交換～

◎九州運輸局及び鹿児島県は、11月2日(水)、「かごしま県民交流センター」(鹿児島県鹿児島市)において、「物流に関する意見交換会」を共同で開催しました。

◇内容

・荷主企業や各輸送モードの物流関係団体及び事業者(トラック輸送、鉄道輸送、

海上輸送)、物流施策を推進する行政機関(九州運輸局及び鹿児島県)約60人が一堂に会し、物流を取り巻く情勢や鹿児島県における物流の現状とあわせて、各輸送モードが抱える課題の軽減や物流サービスの改善、利便性の向上に資する意見を交換。

[行政からの説明]

- ・鹿児島県：鹿児島県の物流の現状について
- ・九州運輸局：物流の効率化に向けた施策及び支援制度について

[各輸送モードの状況(現状・課題・取組等)の説明]

- ・鹿児島県トラック協会：トラック運送業界の現状について
- ・フェリーさんふらわあ：鹿児島の東の玄関口「志布志港」
- ・マルエーフェリー：フェリー、内航海運の航路のご案内
- ・日本貨物鉄道：鉄道コンテナ輸送のご紹介

[意見交換]

- ・人材の確保に向けた取組について
- ・下り荷対策に向けた取組について
- ・物流の効率化に向けた取組について
- ・緊急時・災害時に向けた取組について

◇九州運輸局からのメッセージ

・昨今、二酸化炭素排出量の削減、交通渋滞などの環境問題、トラック運送事業者の労働力不足や運転者の長時間労働、物流の効率化などの観点から、幹線輸送を自動車(トラック)から鉄道輸送や海上輸送へ転換(モーダルシフト)することが重要な課題となっており、中でもトラックドライバーの不足への対応策の一つとしてモーダルシフトへの関心が高まっています。

・しかしながら、モーダルシフトの推進に向けては、輸送モードが複数に渡っており容易に検討が進んでおらず、また、異なる業種間での相互の交流の機会も少ないのが現状となっています。

・そこで、安定的かつ安全に物流サービスを提供できる物流体制を維持、確保する観点から、荷主企業や各輸送モードの物流関係団体及び事業者、行政機関が一堂に会して、それぞれの立場から顕在化している課題、改善方策や利用促進に向けた取り組み等について意見交換を行い、現状や課題の共有、連携の強化を図りました。

・九州運輸局及び鹿児島県では、各輸送モードが抱える課題の軽減や物流サービスの改善、利便性の向上に向けて、今後も継続的に開催していきます。

◇意見交換会の模様は、九州運輸局メールマガジンフォトライブラリーからご覧ください。

http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/mail_magazine/pdf/photo/photo_346_5.pdf

◆福岡貨物ターミナル駅で、「鉄道コンテナ施設等見学会」を開催しました
～モーダルシフトの推進に向けて～

◎九州運輸局では日本貨物鉄道株式会社九州支社との共催及び公益社団法人鉄道貨物協会、九州地方通運業連盟からの協賛で、10月27日(木)及び11月15日(火)に、九州での拠点駅であるJR貨物福岡貨物ターミナル駅(福岡市東区)にて、今年度3回目となる「鉄道コンテナ施設等見学会」を開催しました。

◇内容

・モーダルシフト推進に向けた取組の説明及び駅構内での鉄道コンテナ、施設の現地見学を実施。

・トラック運送業者、利用運送事業者、倉庫業者、海運業者等の担当者53人が参加。

・本見学会は、本年度、鹿児島貨物ターミナル駅、鳥栖貨物ターミナル駅に続いて3回目。今回は参加希望者多数のため、2回に分けて開催。

①主催者挨拶：九州運輸局交通政策部長

②取組説明

・モーダルシフト推進施策の概要：九州運輸局交通政策部 環境・物流課

・青果物流通システム高度化事業の概要：九州農政局生産部園芸特産課

・鉄道コンテナ輸送について：日本貨物鉄道株式会社九州支社

・エコレールマークについて：公益社団法人鉄道貨物協会

③現地見学

・各種鉄道コンテナ（12ft ドライコンテナ、保冷コンテナ、31ft ウイングコンテナ等）の構造、31ft ウイングコンテナのトップリフターを使用した荷役状況等の説明・見学

④意見交換等

◇九州運輸局からのメッセージ

・二酸化炭素排出量の削減、交通渋滞などの環境問題、トラック運送事業者の労働力不足や運転者の長時間労働の改善、物流の効率化などの観点から、幹線輸送をトラックから鉄道輸送や海上輸送へ転換（モーダルシフト）することで、その改善を図ることが注目されています。

・今回の鉄道コンテナ施設等見学会には、定員の2倍近くの応募があるなど、効率的な輸送手段となるモーダルシフトへの関心は高く、参加者は取組説明や、その後行われた現地見学では各種コンテナの構造、トップリフターを使った荷役状況の説明に熱心に聞き入っていました。

・アンケート結果では、トラック運送事業者の労働力不足や法令遵守への対策の有用性、31ft ウイングコンテナを含めた多様なコンテナの整備による鉄道貨物輸送力の増強への期待感が示されています。

・改正物流総合効率化法が10月から施行されていることなども踏まえ、今後とも鉄道コンテナ施設等見学会を始め、モーダルシフト推進に向けて様々な取組を行っていきます。

◇見学会の様子は九州運輸局メールマガジンフォトライブラリーからどうぞ。

http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/mail_magazine/pdf/photo/photo_346_6.pdf

◆フェリー火災に備えて

～管内で初めて、フェリー事業者などを対象に合同消防訓練を開催～

◎九州運輸局、福岡運輸支局、下関海事事務所は、北九州市消防局門司消防署、関門地区旅客船協会と連携し、10月31日(月)、阪九フェリー株式会社第1ターミナル会議室及び駐車場（北九州市門司区）にて、「関門地区旅客船合同消防訓練」を開催しました。

◇内容

・船員、運航管理者、関係者等の61人が参加。

・座学にて「燃焼の3要素（熱源、可燃物、酸素）」、「消火の3要素（冷却、除去、

窒息)」、「安全の3要素(単独行動厳禁、人命最優先、避難誘導と人員把握)」の重要性を強調。

・実技にて「消火器・消火ホース」の正しい取り扱いや放水方法などを訓練。

◇九州運輸局、福岡運輸支局、下関海事事務所からのメッセージ

・受講生からは「火災、消火メカニズムの説明や消防士の直接指導による実技もあったので、役に立つ。これからも定期的に合同消防訓練を実施して欲しい。」との要望もあり、非常に有意義な訓練となりました。今後も各関係機関との連携強化や情報共有を行い、訓練のレベルアップを図っていきます。

◇訓練の様子は九州運輸局メールマガジンフォトライブラリーからどうぞ。

http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/mail_magazine/pdf/photo/photo_346_7.pdf

◆鹿児島港で練習船「日本丸」の見学会を開催

◎鹿児島運輸支局では、独立行政法人海技教育機構の練習船「日本丸」が鹿児島港に入港した機をとらえて、鹿児島水産高校の生徒等に対する同船の見学会を実施しました。

◇内容

- ・日本最大級かつ世界でも有数の高速帆船で、『太平洋の白鳥』と称されている練習船「日本丸」の見学会には、鹿児島水産高校の生徒16名と引率教師3名が参加。
- ・船員不足が叫ばれる海運業について、船員への就職志望者を増やすための就業支援の一環として、学校では得られない体験を通じて、船員という職業に更なる興味を持ってもらうことを目的に開催。
- ・座学(概要説明、及び練習船に乗り航海する実習生たちの生活風景を写したビデオ鑑賞)
- ・船内各所の見学(実習生たちの生活スペースやエンジンコントロール室、そして船橋や舵、高さ50mのマスト等々)
- ・質問タイム(船の航海スケジュール、航海中の様子や苦労話などから船内料理は美味しいか、といったものまで様々な質問が出ていました。)

◇鹿児島運輸支局からのメッセージ

- ・実習生たちによる練習船の様々な説明により、生徒たちが船員の仕事を身近に感じることができ、また船員を志す契機となる貴重な体験となったことと思われます。
- ・見学した生徒たちは説明や船の設備等に熱心に耳を傾けており、「将来役立つと思うので、今学べることは学んでおきたい」等の感想が出ていました。
- ・今後も練習船等の入港の機をとらえて見学会を実施し、海運業の将来を担う優秀な人材の育成に向けて取り組んでいきます。

◇見学会の様子は、九州運輸局メールマガジンフォトライブラリーからご覧ください。

http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/mail_magazine/pdf/photo/photo_346_8.pdf

◆奄美群島初の「両頭船」が就航

～旅客船への乗降が安全でスムーズに～

◎鹿児島県大島郡瀬戸内町古仁屋港と同町加計呂間島を結ぶフェリーが、安全性とバリアフリーに配慮された新しい船に変わりました。

◇内容

- ・11月15日（火）、瀬戸内町が経営する離島航路「瀬相～古仁屋～生間航路」に就航する旅客船「フェリーかけろま」の新造船竣工式が開催。
- ・古仁屋港と加計呂間島を結ぶフェリーは、国と県の補助を受けながら住民の生活航路として運航していますが、船齢が20年を超え老朽化が進んでいたことなどから、代替船の建造を進めていたもの。
- ・式には鹿児島運輸支局長をはじめ、多くの関係者が出席し、同船の安全運航を祈願するとともに、新船の竣工を祝いました。同船は12月1日から就航。
- ・船内で開催された神事では神職が祝詞を奏上、関係者が玉串を捧げ、参列者全員で安全運航を祈願。
- ・祝賀会では、鹿児島運輸支局長が新船の特徴や瀬戸内町の航路改善の取組を紹介するとともに、これまで以上に安全運航に万全を期して欲しいと祝辞。
- ・同船は車両が前進だけで乗下船できる「両頭船」となっているほか、バリアフリーにも対応した人に優しい船になっており、利用者の安全性・利便性が格段に向上。
- ・建造費は約6億5000万円で、国と鹿児島県がそれぞれ10%の補助金を交付。

◇鹿児島運輸支局からのメッセージ

- ・新船の就航により、主な利用者である住民の利便性が向上し、より安心・安全な航路になること、また、奄美群島が世界自然遺産に登録され、多くの観光客にこの船を利用していただけることを期待しています。

◇竣工式の様子や新船の写真は、九州運輸局メールマガジンフォトライブラリーからご覧になれます。

http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/mail_magazine/pdf/photo/photo_346_9.pdf

◆練習船「青雲丸」で高校生の船舶料理士体験学習会を実施
～福岡県立水産高校の生徒が船舶の調理現場を体験～

◎九州運輸局では11月16日（水）に、独立行政法人海技教育機構（JMETS）の協力を得て、博多港に寄港した同機構の練習船「青雲丸」において船舶料理士体験学習会を実施しました。

◇内容

- ・体験学習会では、運航要員とともに内航海運業界が求めている船舶料理士にスポットを当て、卒業生の多くが調理師となっている福岡県立水産高等学校食品流通科の生徒33人を練習船「青雲丸」に招き、調理現場の見学や、司厨長・乗組員等とのディスカッションを実施。
- ①同船の船橋、通信室等を見学。
- ②厨房設備や実際に調理している司厨部員の作業現場を見学。
- ③航海中に実際調理している厨房のDVD映像を事務長の解説を交えて視聴。
- ④一等航海士がスライドを用いながら内航海運や船員についての講義。
- ⑤司厨長や乗組員との質疑応答（初任給や船内での楽しみ、トイレ等の船内設備などの質問がありました。）

◇九州運輸局からのメッセージ

船舶料理士にスポットを当てた取り組みは初めてであったので、手探り状態での実施であったが、参加した生徒へのアンケートでは、85%の生徒が「将来の進路選考に参考になった」、52%の生徒が「仕事に魅力を感じた」と答えており、船員や船舶料理士の業務をPRできたと思われまます。この中から一人でも多くの生徒が船舶料理士の道に進んで貰うことを期待しています。

今後も、内航海運業の船員不足の解消に繋がる取組みを継続していくこととしています。

◇体験学習会の模様は、九州運輸局メールマガジンフォトライブラリーからどうぞ。

http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/mail_magazine/pdf/photo/photo_346_10.pdf

2 お知らせ

◆輸送機関の安全対策実施状況をチェック！

～年末年始の輸送等に関する安全総点検を実施します～

国土交通省九州運輸局では、平成28年12月10日(土)～平成29年1月10日(火)にかけて、年末年始の輸送等に関する安全総点検を実施します。

この「総点検」は、日々の国民生活や経済活動を支える基盤である輸送機関等の「安全・安心」の確保が不可欠な中で、特に大量の輸送需要が発生し、輸送機関に人流・物流が集中する年末年始においてひとたび事故等が発生した場合には大きな被害となることが予想されることから、例年この時期に実施しているものであり、昭和42年の開始から今年で50回目を迎えました。

輸送機関の「安全・安心」の確保のために、管内の鉄軌道交通、自動車交通、海上交通、利用運送、バス・トラックターミナルや自動車道等の事業者、約1万3千事業者に対し、自主点検をはじめとする積極的な取組をお願いしています。

また、本局・各運輸支局・海事事務所において、期間中以下のとおり事業者等への立入り点検を実施することとしています。

○事業者への立入り点検

・鉄軌道索道関係11社(12ヶ所)・自動車関係19社・船舶関係57社(73隻)・トラックターミナル2社

○自動車の街頭検査6回

今年度の「総点検」の要綱等、詳細については九州運輸局ホームページからご覧ください。

http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/bousai-q/a_soutenken.htm

◆「公共交通事故被害者等支援フォーラム」を開催します

国土交通省では、平成24年より公共交通事故被害者等支援室を設置し、公共交通事故により被害に遭われた方への支援を行っています。安全意識の啓発や公共交通事業者による被害者等支援の意義等について、より一層理解を深めていただくため、被害者の方にご経験をお話いただくほか、国土交通省公共交通事故被害者支援室の業務を紹介するフォーラムを業界団体、一般の方を対象として、次のとおり開催します。

①日時：平成28年12月13日(火)13:30～16:30(受付開始：12:45～)

②場所：福岡合同庁舎新館7階九州運輸局海技試験場(福岡市博多区博多駅東)

2-11-1)

③プログラム

[講演]

「いのちの授業」8・12連絡会事務局長 美谷島 邦子 様（日航ジャンボ機墜落事故被害者ご遺族）

[説明]「公共交通事故被害者等支援の現状」九州運輸局交通政策部消費者行政・情報課

[講演]「自動車事故被害者援護業務の制度について」独立行政法人自動車事故対策機構 山浦 康弘 様

④参加募集：120人（参加費無料）

⑤申込締切：平成28年12月6日（火）17：00

（別紙①申込書にご記入頂き「FAX」または「電子メール」でお申し込み下さい。）

※申込書はこちらから。

http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/mail_magazine/pdf/photo/photo_346_11.pdf

◆「地方創生DMO実践編シンポジウム in 九州」開催について

昨年11月より観光庁において登録制度を開始した日本版DMO候補法人は、現時点で全国111法人（九州では15法人）となり、今後は日本版DMOの形成・確立に向けた取組を推進する段階に入ったと言えます。

このたび、日本版DMOに対する理解促進や一層の普及啓発、日本版DMO形成に向けた実践的な情報共有を目的に、DMO推進機構九州支部主催による「地方創生DMO実践編シンポジウム in 九州」が開催されることになりましたので、お知らせ致します。

■日時 2016年12月14日（水）13:00～16:30

■会場 都久志会館4階（福岡市中央区天神4-8-10）

■参加費 3,000円

■定員 120名

■参加申込先（メール又はFAXにて）

・DMO推進機構九州支部（アイデアパートナーズ株式会社内）

・電話：092-739-6080

・FAX：092-739-6081

・メールアドレス：info@idea-p.co.jp

※お申し込み方法の詳細は以下のURLからチラシをご参照下さい。

http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/mail_magazine/pdf/photo/photo_346_13.pdf

◆日本政府観光局（JNTO）主催の インバウンドビジネスセミナー「インバウンドビジネス最前線～外国人旅行者がもたらすビジネスチャンス～」が開催されます

日本における外国人旅行者数は、2016年10月には累計人数が2,000万人の大台を突破し、「2020年の訪日客数4,000万人、インバウンド消費額8兆円」という次の目標実現を目指す中、インバウンド消費は全国に広がりを見せており、そこには大きなビジネスチャンスが眠っています。

日本政府観光局は西日本新聞社、日本経済新聞社と共催で、インバウンドビジネスへの新規参入を目指す国内自治体や民間企業を主な対象として、九州地方のインバウンドビジネスのあり方について考えるビジネスセミナーを次のとおり開催いたします。

- ・日時：2016年12月19日（月）13：30～18：00予定（開場13:00）
- ・会場：エルガーラ中ホール
- ・主催：日本政府観光局（JNTO）・西日本新聞社・日本経済新聞社
- ・定員：200名入場無料
- ・申込方法：以下のリンクよりお申し込み下さい。

http://www.uneijimukyoku.jp/inbound/about_fukuoka.html

3 九州運輸局ホームページアップ情報

--- 報道発表

<http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/#HOUDOU>

--- お知らせ

<http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/#OSIRASE>

--- 更新情報

<http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/#KOUSIN>

////////編集部だより //////////////////////////////////////
先週 25 日に全国的にもインフルエンザが流行シーズン入りしたとの発表がありました。外出後の手洗いはもちろんのこと、咳エチケットで感染を防ぎましょう。

「咳エチケット」

- ・咳・くしゃみが出たら、他の人にうつさないためにマスクを着用する。マスクをもっていない場合は、ティッシュや腕の内側などで口と鼻を押さえ、他の人から顔をそむけて1m以上離れる。
- ・鼻汁・痰などを含んだティッシュはすぐゴミ箱に捨て、手のひらで咳やくしゃみを受け止めた時はすぐに手を洗う。
- ・咳をしている人にマスクの着用をお願いする。

今年もあと一月となりました。街路樹もそろそろ冬支度を始めたようです。

http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/mail_magazine/pdf/photo/photo_346_12.pdf

いつも九州運輸局メールマガジンをご覧ください誠にありがとうございます。
編集部では、運輸と観光に関する取組や話題、イベントの案内、地域の情報等、本メールマガジンへの掲載記事を広く募集しています。お気軽にご投稿ください。

////////////////////////////////////

■本メールマガジンのバックナンバー閲覧はこちらから

http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/mail_magazine/backnumber-top.htm

■本メールマガジンの配信中止やメールアドレスの変更などはこちらから

http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/kouhou_mail.html

■九州運輸局メールマガジン編集部（九州運輸局総務部内）

mail: qst-mm-kyushu@ml.mlit.go.jp

Tel : 092-472-2312 Fax : 092-471-7192
